

第6学年 国語科学習指導案

1 単元名 「物語を読んで、考えを深めよう」

教材名 「海の命」

2 単元の目標

- ・作品に描かれている登場人物のつながりや心情を読み取ろうとしている。
- ・登場人物の相互関係や、心情、場面についての描写を捉え、自分の考えをまとめることができる。
- ・物語の構成を理解することができる。

3 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
○作品に描かれている登場人物のつながりや心情を読みとろうとしている。	○相互の会話や行動の奥にある機微を捉えている。 ○人物や出来事について、作者の考えを読み取り、自分の考えをもとうとしている。 ○交流することで、考えを広げたり深めたりしている。	○比喩的な表現の効果的な使い方を理解している。

4 単元について

(1) 単元設定の理由

第5学年からこれまで様々な物語文を読み、作者の伝えたいことについて考えてきた。本単元でも教材名である「海の命」という言葉や太一の生きた方に関係付けながら、作者の伝えたいことを考えさせ、自分の普段の生活を振り返りながら「生きるということ」、「自然と共存すること」について考えさせたい。

(2) 教材文について

本教材は、主人公の太一が海を舞台に自然や様々な人との関わりの中で成長していく物語である。太一の父は村一番のもぐり漁師であったが、一匹の大きなクエを捕ろうとして命を落としてしまう。太一は「生活に必要な分だけ魚を捕る」という父や師匠である与吉じいさの教えを守り立派な漁師になるが、心の中では父の命を奪ったクエを討ちたいという気持ちをもち続けている。

対比される「クエを討ちたい」という気持ちと「必要以上に命を奪わないという教えを守ろう」とする気持ちを読み進めていくことで、「自然との共存」や「生と死」、「自分がどう生きるべきかの葛藤」などの考えをもつことができる作品である。

5 研究主題に迫るために（学習活動の工夫）

(1) 4つの思考の型を取り入れた言語活動

(2) 「物語文を読む10の観点」の活用

(3) ワークシートの活用「一人読み」

- ・場面ごとにワークシートを作成し、登場人物の心情が読み取れる箇所などにサイドラインを引き、自分の考えを書き込ませる。

(4) 板書の工夫・学習環境の工夫

- ・学習の振り返りができるように、模造紙に書いて教室に掲示し、以前の学習内容を振り返ることができ

るようにする。

(5) 発問の工夫

- ・児童が叙述から離れた想像を広げないように、視点をしばって発問する。

(6) 学習形態の工夫

・ペア音読

二人組になり、読み手と聞き手に分かれる。教科書を交換し読み手は音読を始める。聞き手は、読み手が間違えた箇所や読み直した箇所に線を引く。読み終わったら、読み間違えた箇所を確認し役割を交代する。2回目からは、聞き手は消しゴムを持ち、間違えずに読めたら線を消す。また、新たに読み間違えがあった場合は新たに線を引く。こうすることで、読み手は自分がどこを読み間違えやすいのか確認でき、正確に読もうとする態度を育てる。

・ペア対話

ワークシートに書き込む「一人読み」と「クラス全体での話し合い」の間に二人組になって自分の考えを伝える時間を作る。このペア対話を通して、全員が自分の考えを実際に「話す」という活動が保障される。言葉を選びながら、自分の考えを伝えることで自身の思考を深めることにもつながる。

【ペア対話の3つの条件】

- ・話したいことを短く区切って、相手と交互に話す。
- ・相づちを打つなど聞いていることを態度で示しながら、相手の話を聞く。
- ・相手の意見を自分の意見と比較しながら聞き、合図があるまで沈黙の時間を作らない。

6 学習指導計画（全8時間）

次	時	ねらい	主な学習活動と4つの思考	評価規準・方法
1	1	全文を読んで初発の感想を交流する。	・物語が6つの場面から構成されていることをとらえ、心に残ったことを中心に感想を書く。	【関】物語を想像しながら、心に残ったことを感想に書いている。 (発表・ワークシート)
	2	物語の大体をつかむ。	<u>物語のあらすじをとらえよう</u> ・10の観点に基づき、物語の構成を捉える。	【読】物語のあらすじをつかみ、ワークにまとめている。(ワークシート)
2	3	第一場面から太一の父の人柄とクエの存在を読み取る。	<u>太一の父の生き方を考えよう</u> (第一課題) ・太一の父の人柄が表れているところに線を引き、そこから分かることを発表する。 【選択】【類推】 <u>クエとはどういう存在かを考えよう</u> (第二課題) ・父と関連付けながらクエについてまとめる。【関係付け】 (言葉の力) ある日 (日常生活の一部としての「ある日」)	【読】「海のめぐみだからなあ。」に着目し、父の人柄を読み取ることができる。 (発表・ワークシート)

4	第二・三場面を読み、与吉じいさとの関係の中で成長する太一を読み取る。	<u>与吉じいさの生き方を読み取ろう</u> (第一課題) ・与吉じいさの人柄が表れているところに線を引き、そこから分かることを発表する。【選択】【類推】 <u>与吉じいさとの関わりの中で成長する太一を読み取ろう</u> (第二課題) ・与吉じいさの言葉や、太一の口調などから成長を読み取る。【比較】 (言葉の力) 会話文の口調から読み取れる太一の成長	【読】「村一番」「おまえの海」という言葉や太一の口調に着目し、太一の成長を読み取ることができる。 (発表・ワークシート)	
	第四場面を読み、母の悲しみを知らながら海にもぐる太一の気持ちを読み取る。	<u>母にとって海とはどのようなものだろう</u> (第一課題) ・海に対する母の気持ちが書かれているところに線を引き、そこから分かることを発表する。【選択】【類推】 <u>母の悲しみを知らながら、どうして太一は海にもぐるのだろう</u> (第二課題) ・海にもぐる太一の気持ちが書かれているところに線を引き、そこからわかることを発表する。【選択】【類推】 (言葉の力) 「興味をもてなかった」「興味をもたなかった」の違い	【読】「とうとう」「父の海」「興味をもてなかった」という言葉に着目し、太一が海にもぐる理由を読み取ることができる。 (発表・ワークシート)	
	6 (本時)	第五場面を読み、クエとの出会いによる太一の変化を読み取る。	<u>太一が泣きそうになった理由を読み取ろう</u> (第一課題) ・太一の気持ちが書かれているところに線を引き、そこから分かることを発表する。【選択】【類推】 <u>クエを殺さなかった太一は一人前の漁師になれなかったのか</u> (第二課題) ・クエを殺さなかった太一は、一人前の漁師になれなかったのかを考え、発表する。【関係付け】 (言葉の力) 物語の題名と主題	【読】「太一は泣きそうになった」「一人前の漁師」という表現に着目し、父や与吉じいさの教えを本当の意味で理解した太一の成長を読み取ることができる。 (発表・ワークシート)
3	7・8	作者の伝えたいことをまとめる。	<u>作者の伝えたいことを考えまとめよう</u> ・作者の伝えたいことを考えながら、第五場面後半、第六場面を読む。 ・題名である「海の命」という言葉に着目して、作者の伝えたいことをまとめ、自分の考えを書く。【関係付け】	【書】2次で学んだことを踏まえながら作者の伝えたいことをまとめることができる。 (ワークシート)

7 本時の指導 (6 / 8 時)

(1) 本時の目標

- ・「太一は泣きそうになった」「一人前の漁師」という表現に着目し、葛藤する太一の心情について考え、父や与吉じいさの教えを本当の意味で理解した太一の成長を読み深めることができる。

(2) 展開

	学習活動	指導上の留意点	評価規準
導入	1 前時までの学習活動を振り返る。 2 第五場面をペア音読する。	○物語の山場を考えながら読ませる。	
展開	3 太一の気持ちが一番大きく変わったところと、その前後で太一の気持ち (考え) にどのような変化があったかをおさえる。【選択】	○山場の前後でクエに対する気持ちが大きく変わっていることを確認する。	
	太一が泣きそうになった理由を読み取ろう (第一課題)		

	<p>4 太一が泣きそうになった理由を考えよう。【選択】【類推】</p> <p><クエを殺したい></p> <ul style="list-style-type: none"> ・このクエを討って父を越えたい。 ・このクエを討つことで一人前と認めてもらいたい。 ・父を破ったクエに復讐したい。 <p><クエを殺してはいけない></p> <ul style="list-style-type: none"> ・千びきに一びき（与吉じいさの教え）。 ・海のめぐみ（父の教え）。 <p>二つの気持ちに葛藤する太一を読み取る。</p>	<p>○これまでの場面で学んできた父や与吉じいさの、命を大切にする漁の仕方と関係付けて読ませる。</p>	<p>【読】読むべき叙述に気付きサイドラインを引き、太一の気持ちを考えることができる。（ワークシート）</p>
<p>クエを殺さなかった太一は、一人前の漁師になれなかったのか（第二課題）</p>			
	<p>5 クエを殺せなかった太一は、一人前の漁師になれなかったのかを考え、ペア対話を行い発表する。【関係付け】</p> <p><本当の一人前の漁師></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の気持ちのために必要もなく海の命を奪うのではなく、海と共生しているおとうや与吉じいさのような漁師が本当に一人前の漁師だ。 ・「海のめぐみ」、「千匹に一匹」という考えをもった父や与吉じいさのような漁師になれた。 	<p>○題名である「海の命」という言葉が主題と深く関わっていることを押さえる。</p>	<p>【読】「太一は泣きそうになった」、「一人前の漁師」という表現に着目し、父や与吉じいさの教えを本当の意味で理解した太一の成長を読み取ることができる。（発表・ワークシート）</p>
<p>まとめ</p>	<p>6 次時の学習のめあてをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次時に題名である「海の命」と関係付けながら、作者が伝えたいことについて考える学習をすることを確認する。 <p><言葉の力></p> <p>文学の題名は、その物語の主題に大きく関わっていることが多い。</p>	<p>○これまでの文学教材の題名についても確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「カレーライス」 ・「一つの花」 	